

エコアクション 21

2023年度 環境経営レポート



[対象 期間]

自 2023年 4月 1日
至 2024年 3月 31日

永和工業 株式会社

作成日 2024年 7月 1日

— 目 次 —

1. 組織の概要

- (1) 事業所名 及び 代表者名
- (2) 所在地
- (3) 事業の概要
- (4) 事業の規模
- (5) 環境管理責任者 及び 担当者連絡先

2. 対象範囲（認証・登録範囲）

- (1) 全事業所、組織の全事業活動を 対象とする
- (2) 役割・責任・権限

3. 環境経営方針

4. 環境経営目標

5. 環境経営計画

6. 環境経営目標の実績

7. 環境経営目標 及び 環境経営計画の実績・取組結果と その評価（実績には二酸化炭素排出量を 含む）並びに 次年度の環境経営目標 及び 環境経営計画

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び 評価の結果 並びに 違反・訴訟などの有無

9. 代表者による全体評価 と 見直しの結果

1. 組織の概要

(1) 事業所名 及び 代表者名

事業所名 えいわ こうぎょう 永和工業株式会社

代表者名 はらだ もと こ 代表取締役 原田 素子

(2) 所在地

本社 きたきゅうしゅうし もじく まつばら 2-3-5 北九州市門司区松原 二丁目3番5号

小倉第一事業所 北九州市小倉北区中島 二丁目1番1号

小倉第二事業所 北九州市小倉南区朽網東 五丁目1番1号

黒崎 事業所 北九州市八幡西区黒崎城石 1番1号

(3) 事業の概要

建設業 ① 管工事業
② 機械器具設置工事業
③ 消防施設工事業

営業品目 * 各種プラントの配管工事
* 機械器具設置・改造工事 及び メンテナンス
* 各種ライニング工事
* 金属 及び 樹脂製品の製作加工
* 上記に付帯関連する工事の 設計施工

(4) 事業の規模

	2021年度	2022年度	2023年度
売上高	484,066 千円	715,963 千円	541,708 千円
従業員数	30 人	30 人	29 人
本社事務所床面積	226 m ²	226 m ²	226 m ²
本社工場建築面積	625 m ²	625 m ²	625 m ²
本社敷地面積	3,014 m ²	3,014 m ²	3,014 m ²

(5) 環境管理責任者 及び 担当者連絡先

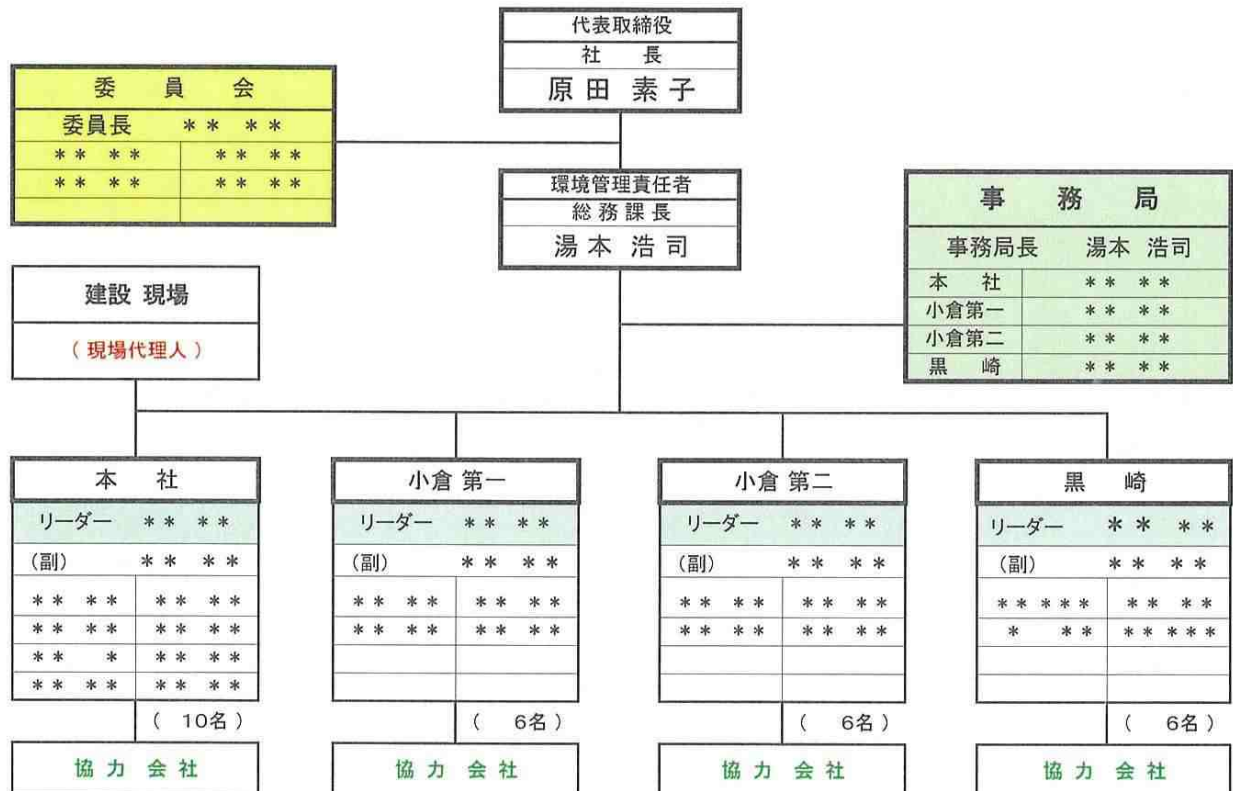
			[連絡先]	[FAX]
環境管理責任者	総務 課長	湯本 浩司	093-371-1221	093-381-5699
(担当 連絡先)	総 務 課	湯本 浩司	093-371-1221	093-381-5699

2. 対象範囲（認証・登録範囲）

2023年 4月 1日

（1） 全事業所、組織の全事業活動を 対象とする

永和工業 株式会社 エコアクション21 実施体制



（2） 役割・責任・権限

〔 役 割 分 担 表 〕

氏 名	役職（所属）	役割・責任・権限・使命
原 田 素 子	代表取締役	全社活動の統括、環境方針の設定、環境への取組みを実施するためのあらゆる準備と活動全般の評価や見直しを行う。
湯 本 浩 司	環境管理責任者	活動全体の把握、環境経営システムを構築・運用し、その状況を社長に報告する。
****	委 員 会	半年に1回開催し、環境目標の達成状況及び活動計画の実施状況を審議する。 必要によっては、随時開催する。
湯 本 浩 司	事 務 局	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理 3ヶ月に1回事業所リーダー会を開催し、実施計画についての対策や効果等の達成状況や目標に対する取り組み実施状況などについて、審議する。
****	(本 社)	省資源活動 環境負荷の少ない物品を優先的に購入する。
****	(小倉 第一)	産廃物の削減 資源ゴミの分別を徹底し、廃棄物の減量に努める。
****	(小倉 第二)	省エネ活動 節水・節電に努めると共に設備・車両・機器等の環境商品化を推進して行く。
****	(黒 崎)	温暖化防止 人的・金銭的支援を含めた緑化活動推進により、地域貢献を行う。エコドライブの推進
現場代理人	管轄 事業所	建設現場のエネルギー削減・リサイクル率管理・環境景観管理

3. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

I. 基 本 理 念

環境保全を事業活動の中での重要課題に位置づけ、各利害関係者とコミュニケーションをとりながら、環境に資するあらゆる改善を 継続的に図って行く。

II. 行 動 指 針

1. 環境負荷の低減

(1) 省資源活動

- ① 環境負荷の少ない物品を 優先的に購入する。
- ② 再生紙の利用や両面印刷等を 推進し、用紙の削減や有効活用を 行う。

(2) 省エネ活動

- ① 節水や節電に 努める。
- ② 設備・車両・機器等についての環境商品化を 推進して行く。

(3) 廃棄物の削減

- ① 無駄な消費を 削減し、廃棄物の削減に 努める。
- ② 資源ゴミの分別を 徹底し、廃棄物の減量に 努める。

(4) 温暖化の防止

- ① エコドライブを 推進する。
- ② 原材料や副資材のグリーン化・グリーン購入に取り組む等、緑化活動を 推進することによって地域貢献を 果たす。

2. 環境マネジメントシステムの構築と継続的改善

3. 環境教育の充実と環境の保護

4. 環境関連法規の遵守

5. 業務リスクを回避し、経営効率の向上を図る

(1) 不良品や手待ち・出戻りの撲滅

- ① 作業前の施工打合せを シッカリと行い、不良品の発生を 防止する。
- ② 出発前には、材料や道具などの積荷を 確認し、手待ちや出戻りなど 無くす。

(2) 無事故無災害の達成

- ① 始業前には、必ず KYを 実施し、作業の安全を 保持する。
- ② 現場・作業場の安全パトロールを 実施し、不安全行動や不安全設備を 改善する。

6. 若手社員の採用強化と教育の推進

環境経営の継続的改善を 誓約します。

制定日 2011年 12月 28日
改定日 2021年 12月 2日

永和工業 株式会社
代表取締役
原 田 素 子

4. 環境経営目標

2023 4月 1日

2023年度 及び 中長期 環境経営目標

2022年度(基準年度)の実績を 踏まえ、各年度の目標を 設定しております。

環 境 目 標		単 位	2022年度 実績	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標	2026年度 目標
			(基準 年度 100%)	(基準年度実績 対比率)	(基準年度実績 対比率)	(基準年度実績 対比率)	(基準年度実績 対比率)
1	二酸化炭素 排出量	kg-CO2	38,565 kg-CO2	32,545 kg-CO2 (84. 4 %)	31,752 kg-CO2 (82. 3 %)	31,436 kg-CO2 (81. 5 %)	31,218 kg-CO2 (80. 9 %)
1-1	電 気 使用量	kWh	24,407 kWh	22,500 kWh (92. 2 %)	22,100 kWh (90. 5 %)	22,000 kWh (90. 1 %)	21,900 kWh (89. 7 %)
1-2	ガソリン 使用量	ℓ	9,434 ℓ	7,550 ℓ (80. 0 %)	7,400 ℓ (78. 4 %)	7,350 ℓ (77. 9 %)	7,300 ℓ (77. 4 %)
1-3	軽 油 使用量	ℓ	1,722 ℓ	1,450 ℓ (84. 2 %)	1,350 ℓ (78. 4 %)	1,300 ℓ (75. 5 %)	1,280 ℓ (74. 3 %)
1-4	L P G 使用量	kg	2. 40 kg	5. 00 kg (208. 3 %)	3. 00 kg (125. 0 %)	2. 80 kg (116. 7 %)	2. 60 kg (108. 3 %)
2-1	廃 棄 物 排出量	t	63. 28 t	58. 00 t (91. 7 %)	55. 00 t (86. 9 %)	54. 00 t (85. 3 %)	53. 00 t (83. 8 %)
2-2	建設副資材の リサイクル率	リサイクル率 (循環資源 t)	67. 5 % (42. 74 t)	69. 0 % (40. 00 t)	70. 0 % (38. 50 t)	70. 4 % (38. 00 t)	70. 8 % (37. 50 t)
3	総排水量 (給水量)	m ³	69. 4 m ³	69. 0 m ³ (99. 4 %)	68. 5 m ³ (98. 7 %)	68. 0 m ³ (98. 0 %)	67. 5 m ³ (97. 3 %)
4	グリーン購入の推進	事務用品	再生用品の活用品目 達 成 率	0 件 (100. 0 %)	1 件 (100. 0 %)	1 件 (100. 0 %)	1 件 (100. 0 %)
		再エコ車対応 (全17台)	省エネ車／車両総数 (%) 普 及 率	17 台／17台 (100. 0 %)	17 台／17台 (100. 0 %)	17 台／17台 (100. 0 %)	17 台／17台 (100. 0 %)
5	会社周辺の清掃 (※ 100% 以上を 達成目標とする)	実施 回数 (達 成 率)	38 回／年	38 回／年 (100. 0 %)	40 回／年 (105. 3 %)	41 回／年 (107. 9 %)	42 回／年 (110. 5 %)
6	無事故 無災害 達成 (※ 各所 100%を 達成目標とする)	事故災害 件数 (達 成 率)	0 件／年	0 件／年 (100. 0 %)	0 件／年 (100. 0 %)	0 件／年 (100. 0 %)	0 件／年 (100. 0 %)
7	若手社員の採用 と 育成	若手採用 人数	1 人／年	1 人／年 (100. 0 %)	1 人／年 (100. 0 %)	1 人／年 (100. 0 %)	1 人／年 (100. 0 %)
		教育研修 回数	6 回／年	6 回／年 (100. 0 %)	6 回／年 (100. 0 %)	6 回／年 (100. 0 %)	6 回／年 (100. 0 %)

備 考 1 : 電気 (1-1)・水 (3)・周辺の清掃 (5) は 本社のみ、LPG (1-4) は 本社と黒崎の合計で 集計する。又、購入電力の二酸化炭素排出係数は、2019年度 日本テクノ ㈱の 0. 501 kg-CO2/kWhを 使用し、2023年度以降の目標 及び 実績を 計算している。

2 : 循環資源のリサイクル率は、年度毎の 循環資源／総排出量で 計算する。

3 : 化学物質の使用は、行っていない。

5. 環境経営計画

2023年 4月 1日

2023年度 環境経営計画

2023年度 環境経営計画の項目

(1) 二酸化炭素 総排出量削減

[illegible]

(2) 廃棄物 排出量の削減と建設資材のリサイクル率の向上

[illegible]

(3) 総排水量の削減

[illegible]

(4) グリーン購入の推進

[illegible]

(5) 会社周辺の清掃等

[illegible]

(6) 無事故無災害の達成

[illegible]

(7) 若手社員の採用と育成

[illegible]

6. 環境経営目標の実績

2024年 5月10日

2023年度 環境経営目標の実績 (12/12)

2022年度(基準年度)実績を 踏まえ、2023年度の目標を 設定しております。

環 境 目 標		単 位	2022年度 実績 (基準年度 100%)	2023年度 期間目標 (中間目標 4月～ 3月)	2023年度 期間実績 (目標対比 4月～ 3月)	基準年度 対 比 率	評 価	コ メ ン ト
1	二酸化炭素 排出量	kg-CO2	38,565 kg-CO2	32,545 kg-CO2	33,476 kg-CO2 (102. 8 %)	86.8%	×	構内以外の工事を多く受注し、化石燃料の使用量が増えて、増加した。
1-1	電 気 使用量	kWh	24,407 kWh	22,500 kWh	22,896 kWh (101. 8 %)	93.8%	×	前年比使用量は減少したが、目標達成はしていない。
1-2	ガソリン 使用量	ℓ	9,434 ℓ	7,550 ℓ	7,752 ℓ (102. 6 %)	82.2%	×	軽減努力により前年比大幅に減少したが、目標未達。
1-3	軽 油 使用量	ℓ	1,722 ℓ	1,450 ℓ	1,556 ℓ (107. 3 %)	90.4%	×	製品の運搬で大型車の稼働が増え使用量も増加した。
1-4	L P G 使用量	kg	2. 40 kg	5. 00 kg	2. 30 kg (46. 0 %)	95.8%	○	日々こまめに軽減努力がなされている。
2-1	廃 棄 物 排出量	t	63. 28 t	58. 00 t	57. 08 t (98. 4 %)	90.2%	○	端材残材の活用に加え、廃棄物の軽減に努めた。
2-2	建設副資材の リサイクル率	リサイクル率 (循環資源 t)	67. 5 % (42. 74 t)	69. 0 % (40. 00t)	70. 0 % (39. 97 t)	103.7%	○	分別廃棄が定着し、リサイクル率も向上した。
3	総排水量(給水量)	m ³	69. 4 m ³	69. 0 m ³	66. 7 m ³ (96. 6 %)	96.1%	○	皆の節水努力で使用量は減少した。
4	グリーン購入の推進	事務用品	再生用品の活用 品目 (達成率)	0 件	1 件 (0. 0 %)	0.0%	×	
		エコ車対応	省エネ車/車両総数 (%) 全社車両台数 17台 (普及率)	17 台 / 17 台	17 台 / 17 台 (100. 0 %)	100.0%	○	
5	会社周辺の清掃 (※ 100% 以上を 達成目標とする)	実施回数 (達成率)	38 回 / 年	38 回	38 回 (100. 0 %)	100.0%	○	5S活動は、定着している。
6	無事故 無災害 達成 (※ 各所 100%を 達成目標とする)	事故災害 件数 (達成率)	0 件	0 件	0 件 (100. 0 %)	100.0%	○	無事故無災害を継続している。
7	若手社員の採用と育成	若手採用 人数	1 人 / 年	1 人 / 年	1 人 / 年 (100. 0 %)	100.0%	○	職安の紹介で、若手社員の採用 1名あり。
		教育研修 回数	6 回 / 年	6 回 / 年	6 回 / 年 (100. 0 %)	100.0%	○	計画どおり、新入社員教育・安全教育を実施した。

- 備 考 1 : 電気(1-1)・水(3)・周辺の清掃(5)は 本社のみ、LPG(1-4)は 本社と黒崎の合計で 集計する。又、購入電力の二酸化炭素排出係数は、2019年度 日本テクノ(株)の 0.501 kg-CO2/kWh を 使用し、2023年度の目標 及び 実績を 計算している。
- 2 : 循環資源のリサイクル率は、年度毎の 循環資源/総排出量で 計算する。
- 3 : 化学物質の使用は、行っていない。

7. 環境経営目標 及び 環境経営計画の実績・取組結果とその評価（実績には二酸化炭素排出量を含む）

並びに 次年度の環境経営目標 及び 環境経営計画

2024年 5月31日

環境経営目標 及び 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 並びに 次年度の環境経営計画

(1) 二酸化炭素 総排出量削減

	活動 項目	本 社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒 崎 事業所	
		評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み
1	電気 使用量の削減 (1) 事務所	室温調節は、適正に保たれている。	こまめに節電活動を継続する。	室温は、いつも適正になっている。	みんなで、節電活動を 継続する。	室温は、いつも適正になっている。	みんなで、節電活動を 継続する。	室温は、いつも適正になっている。	みんなで、節電活動を 継続する。
		エアコンなどスイッチ切忘れはない。	照明のLED化を推進していく。	エアコン・照明設備などスイッチの		エアコン・照明設備などスイッチの		エアコン・照明設備などスイッチの	
		昼休の室内は、原則、消灯している。		切り忘れはない。		切り忘れはない。		切り忘れはない。	
		残業は許可制にし、業務の効率化を 回っている。		昼休の室内は、原則、消灯している。		昼休の室内は、原則、消灯している。		昼休の室内は、原則、消灯している。	
	(2) 工場・加工場	未使用電動工具は、元電源を切る。	こまめに節電活動を継続する。	未使用の電動工具などは、元電源を	みんなで、節電活動を 継続する。	未使用の電動工具などは、元電源を	みんなで、節電活動を 継続する。	未使用の電動工具などは、元電源を	みんなで、節電活動を 継続する。
		昼休の場内は、原則、消灯している。	工場設備使用者には、ピーク電源に	切っている。	新規入構者や協力会社の教育で	切っている。	新規入構者や協力会社の教育で	切っている。	新規入構者や協力会社の教育で
		ピーク電源を考慮し、電力を使用して	に関する説明を行う。	昼休の構内は、原則、消灯している。	更に節電を周知する。	昼休の構内は、原則、消灯している。	更に節電を周知する。	昼休の構内は、原則、消灯している。	更に節電を周知する。
		いる。		設備・工具類の点検済証を配備して		設備・工具類の点検済証を配備して		設備・工具類の点検済証を配備して	
		工場・構内の証明をLEDに変更した。		いる。		いる。		いる。	
2	ガソリン使用量の削減	定期点検で車両の整備不良はない。	出発前の簡易点検を徹底する。	出発前に積荷点検を行っている。	積荷は、指差呼称で複数で行う。	出発前に積荷点検を行っている。	積荷は、指差呼称で複数で行う。	出発前に積荷点検を行っている。	積荷は、指差呼称で複数で行う。
		エコ車で、省エネ運転を行っている。	協力会社も運行ルールを順守する。	出発前の簡易点検を行っている。	協力会社にもルール周知を行う。	出発前の簡易点検を行っている。	協力会社にもルール周知を行う。	出発前の簡易点検を行っている。	協力会社にもルール周知を行う。
3	軽油 使用量の削減			出発前に積荷点検を行っている。	積荷は、指差呼称で複数で行う。	出発前に積荷点検を行っている。	積荷は、指差呼称で複数で行う。	出発前に積荷点検を行っている。	積荷は、指差呼称で複数で行う。
				みんなで、エコ運転を行っている。	エコ車両の導入推進を図って行く。	みんなで、エコ運転を行っている。	エコ車両の導入推進を図って行く。	みんなで、エコ運転を行っている。	エコ車両の導入推進を図って行く。
				機器の整備は、適正に行っている。	エコ機器の導入を推進して行く。	機器の整備は、適正に行っている。	エコ機器の導入を推進して行く。	機器の整備は、適正に行っている。	エコ機器の導入を推進して行く。
4	LPG 使用量の削減	給湯器は、種火を切っている。	こまめな節約を 継続する。					給湯器は、種火を切っている。	こまめな節約を 継続する。
		洗い物は、続けて洗っている。						工事がなく、使用量が大きく減少した。	仕事に見合った適正量を購入する。

(2) 廃棄物 排出量の削減 と 建設資材のリサイクル率の向上

	活動 項目	本 社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒 崎 事業所	
		評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み
1	廃棄物 排出量の削減	事前調整や打合せで不良品はない。	事前打合せを継続して行う。	事前調整や打合せで不良品はない。	事前打合せを継続して行う。	事前調整や打合せで不良品はない。	事前打合せを継続して行う。	事前調整や打合せで不良品はない。	事前打合せを継続して行う。
		原則、在庫買いはしていない。	残材・端材の安易な廃棄はしない。	原則、在庫買いはしていない。	残材・端材の安易な廃棄はしない。	原則、在庫買いはしていない。	残材・端材の安易な廃棄はしない。	原則、在庫買いはしていない。	残材・端材の安易な廃棄はしない。
		残材・端材の活用が効果的になった。		残材・端材の活用が効果的になった。		残材・端材の活用が効果的になった。		残材・端材の活用が効果的になった。	
2	建設資材リサイクル 率の向上	廃棄前に分別処理を確実に行った。	廃棄物の分別管理を継続する。	廃棄前に分別処理を確実に行った。	廃棄物の分別管理を継続する。	廃棄前に分別処理を確実に行った。	廃棄物の分別管理を継続する。	廃棄前に分別処理を確実に行った。	廃棄物の分別管理を継続する。

(3) 総排水量の削減

	活動 項目	本 社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒 崎 事業所	
		評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み
1	水 使用量の削減	みんなで、節水活動を推進している。	節水活動の取り組みを継続する。	みんなで、節水活動を推進している。	節活動の取り組みを継続する。	みんなで、節水活動を推進している。	節活動の取り組みを継続する。	みんなで、節水活動を推進している。	節活動の取り組みを継続する。
		無駄な放水や水の使用などはない。	放水による洗車などは、極力しない。	無駄な放水や水の使用などはない。	放水による洗車などは、極力しない。	無駄な放水や水の使用などはない。	放水による洗車などは、極力しない。	無駄な放水や水の使用などはない。	放水による洗車などは、極力しない。
			樹木への放水は、極力、雨水を使う。						

(4) グリーン購入の推進

	活動 項目	本 社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒 崎 事業所	
		評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み
1	エコ用品の活用	適正な製品が、見つかってない。	適正なエコ品の検討を続ける。	適正な製品が、見つかってない。	適正なエコ品の検討を続ける。	適正な製品が、見つかってない。	適正なエコ品の検討を続ける。	適正な製品が、見つかってない。	適正なエコ品の検討を続ける。
2	省エネ車輛の導入	車両のエコ化が、推進されている。	車両の導入や入替は、エコ車とする。	車両のエコ化が、推進されている。	車両の導入や入替は、エコ車とする。	車両のエコ化が、推進されている。	車両の導入や入替は、エコ車とする。	車両のエコ化が、推進されている。	車両の導入や入替は、エコ車とする。

(5) 会社周辺の清掃等

	活動項目	本 社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒 崎 事業所	
		評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み
1	会社周辺 並びに 事務所・工場・加工場 などの5S活動推進	清掃活動は、毎週、行われている。	5S活動を継続的に行う。	毎日の清掃活動で、職場はいつも	5S活動を継続的に行う。	毎週の活動で事務所・加工場など	5S活動を継続的に行う。	倉庫内は、整備整頓されて綺麗に	5S活動を継続的に行う。
		活動計画・活動実績を掲示している。	残飯などの個人廃棄物は、持ち帰る。	綺麗になっている。	一仕事、一片付けを定着させる。	整理整頓されている。	取捨した機器や工具類は、分別し	いつも綺麗になっている。	器具備品など適正な具備に努める。
						お客様からも、高く評価されている。	廃棄に超す。	不要な物は、廃棄され片付いている。	

(6) 無事故無災害の達成

	活動項目	本 社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒 崎 事業所	
		評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み
1	安全パトロールの実施	毎月定期的に安全パトを行っている。	パトロール活動を継続的に行う。	毎日、適宜、現場巡視を行っている。	パトロール活動を継続的に行う。	毎日、適宜、現場巡視を行っている。	パトロール活動を継続的に行う。	毎日、適宜、現場巡視を行っている。	パトロール活動を継続的に行う。
			協力会社も交代で参加する。	毎月定期的に安全パトを行っている。	協力会社も交代で参加する。	毎月定期的に安全パトを行っている。	協力会社も交代で参加する。	毎月定期的に安全パトを行っている。	協力会社も交代で参加する。
			反省会を行い、意識の高揚を図る。	指摘事項は速やかに是正された。	反省会を行い、意識の高揚を図る。	指摘事項は速やかに是正された。	反省会を行い、意識の高揚を図る。	指摘事項は速やかに是正された。	反省会を行い、意識の高揚を図る。
2	始業前のKY実施	作業前にKY活動を実施している。	日々の活動を継続的に行う。	協力会社にもKY活動が浸透した。	日々の活動を継続的に行う。	協力会社にもKY活動が浸透した。	日々の活動を継続的に行う。	協力会社にもKY活動が浸透した。	日々の活動を継続的に行う。
		KY活動で、事故災害ゼロになった。	KY活動の指導教育の充実を図る。	実施に向けた教育や訓練を行った。	KY活動の指導教育の充実を図る。	実施に向けた教育や訓練を行った。	KY活動の指導教育の充実を図る。	実施に向けた教育や訓練を行った。	KY活動の指導教育の充実を図る。
			活動を活かした現場対応を行う。	新規入構者にも活動が定着している。	活動を活かした現場対応を行う。	新規入構者にも活動が定着している。	活動を活かした現場対応を行う。	新規入構者にも活動が定着している。	活動を活かした現場対応を行う。
3	安全衛生活動の 周知と推進	中央安全衛生委員会の決定事項を	安全衛生活動を継続的に行う。	中央安全衛生委員会の決定事項を	安全衛生活動を継続的に行う。	中央安全衛生委員会の決定事項を	安全衛生活動を継続的に行う。	中央安全衛生委員会の決定事項を	安全衛生活動を継続的に行う。
		社員に周知している。(部会開催)	協力会社にも積極的な参加を促す。	社員に周知している。(部会開催)	協力会社にも積極的な参加を促す。	社員に周知している。(部会開催)	協力会社にも積極的な参加を促す。	社員に周知している。(部会開催)	協力会社にも積極的な参加を促す。
		インフル予防接種など推進している。	協力会社にも安全表彰制度を適用。	インフル予防接種など推進している。	協力会社にも安全表彰制度を適用。	インフル予防接種など推進している。	協力会社にも安全表彰制度を適用。	インフル予防接種など推進している。	協力会社にも安全表彰制度を適用。
		安全・衛生大会への積極的な参加。	社内勉強会の開催する。	安全・衛生行事へ積極的な参加する。	社内勉強会の開催する。	安全・衛生行事へ積極的な参加する。	社内勉強会の開催する。	安全・衛生行事へ積極的な参加する。	社内勉強会の開催する。
		連続休暇取得を奨励している。	働き方改革に伴う労務管理の推進。	連続休暇取得を奨励している。	働き方改革に伴う労務管理の推進。	連続休暇取得を奨励している。	働き方改革に伴う労務管理の推進。	連続休暇取得を奨励している。	働き方改革に伴う労務管理の推進。

(7) 若手社員の採用と育成

	活動 項目	本 社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒 崎 事業所	
		評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み
1	若手社員の採用	縁故採用の推進をしている。	紹介者への報奨金制度を導入する。	若手社員の採用が、出来てない。	紹介者への報奨金制度を導入する。	若手社員の採用が、出来てない。	紹介者への報奨金制度を導入する。	ハローワークの紹介で若手社員を	紹介者への報奨金制度を導入する。
		自衛隊会社説明会へ参加した。	ネット求人・採用の実施(人材紹介)		ネット求人・採用の実施(人材紹介)		ネット求人・採用の実施(人材紹介)	採用することができた。	ネット求人・採用の実施(人材紹介)
		派遣社員の採用を推進している。	人材紹介会社を採用する。		人材紹介会社を採用する。		人材紹介会社を採用する。		人材紹介会社を採用する。
		ポリテクセンターに求人依頼した。	当該先の求人票を適宜、更新する。		コンサルティングを採用する。		コンサルティングを採用する。		コンサルティングを採用する。
		ハローワークの紹介で若手社員の採用ができた。			当該先の求人票を適宜、更新する。		当該先の求人票を適宜、更新する。		当該先の求人票を適宜、更新する。
		新卒高校生の求人をしている。							
		コンサルティングを採用している。							
2	新入社員の育成	雇入れ時の教育を実施した。	新入社員ごとに定められた教育の	新規入籍者教育を準備をしている。	社員に見合う教育スケジュールを	新規入籍者教育を準備をしている。	社員に見合う教育スケジュールを	新規入籍者教育を実施した。	社員に見合う教育スケジュールを
		新入社員教育等を実施した。	充実を図る。	OJT実施の準備をしている。	準備する。	OJT実施の準備をしている。	準備する。	OJTを実施し、実務研修を行った。	準備する。
								業務に必要な教育を受講させている。	業務に必要な教育・受講を継続する。
									受講に向けた事前教育等を行う。

エコアクション21：周辺環境の美化
安全衛生活動・インターンシップ・5S活動など

[実施状況]

1. 朝礼 安全・作業指示



2. 作業前のラジオ体操



3. 2024年度 安全大会



4. 溶接機器 点検



5. 工事部 仕上教育



6. 工場内の清掃



7. 高校生 インターンシップ



8. 5 S 活動：玄関廻りの清掃



9. 5 S 活動：構内の除草



2024年度 及び 中長期 環境経営目標

2023年度(基準年度)の実績を 踏まえ、各年度の目標を 設定しております。

環 境 目 標			単 位	2023年度 実績 (基準 年度)	2024年度 目標 (基準年度実績 対比率)	2025年度 目標 (基準年度実績 対比率)	2026年度 目標 (基準年度実績 対比率)	2027年度 目標 (基準年度実績 対比率)
1	二酸化炭素 排出量		kg-CO2	33,476 kg-CO2	31,752 kg-CO2 (94. 9 %)	31,436 kg-CO2 (93. 9 %)	31,218 kg-CO2 (93. 4 %)	30,974 kg-CO2 (92. 5 %)
1-1	電 気 使用量		kWh	22,896 kWh	22,100 kWh (96. 5 %)	22,000 kWh (96. 1 %)	21,900 kWh (95. 6 %)	21,800 kWh (95. 2 %)
1-2	ガソリン 使用量		ℓ	7,752 ℓ	7,400 ℓ (95. 5 %)	7,350 ℓ (94. 8 %)	7,300 ℓ (94. 2 %)	7,250 ℓ (93. 5 %)
1-3	軽 油 使用量		ℓ	1,556 ℓ	1,350 ℓ (86. 8 %)	1,300 ℓ (83. 5 %)	1,280 ℓ (82. 3 %)	1,250 ℓ (80. 3 %)
1-4	L P G 使用量		kg	2. 30 kg	3. 00 kg (130. 4 %)	2. 80 kg (121. 7 %)	2. 60 kg (113. 0 %)	2. 50 kg (108. 0 %)
2-1	廃 棄 物 排出量		t	57. 08 t	55. 00 t (96. 4 %)	54. 00 t (94. 6 %)	53. 00 t (92. 9 %)	52. 00 t (91. 1 %)
2-2	建設副資材の リサイクル率		リサイクル率 (循環資源 t)	70. 0 % (39. 97 t)	70. 0 % (38. 50 t)	70. 4 % (38. 00 t)	70. 8 % (37. 50 t)	71. 2 % (37. 00 t)
3	総排水量 (給水量)		m ³	66. 7 m ³	68. 5 m ³ (102. 7 %)	68. 0 m ³ (101. 9 %)	67. 5 m ³ (101. 2 %)	67. 0 m ³ (100. 4 %)
4	グリーン購入の推進	事務用品	再生用品の活用品目 達 成 率	0 件 (0. 0 %)	1 件 (100. 0 %)	1 件 (100. 0 %)	1 件 (100. 0 %)	1 件 (100. 0 %)
		再エコ車対応 (全17台)	省エネ車／車両総数 (%) 普 及 率	17 台 ／ 18台	18 台 ／ 18台 (100. 0 %)	18 台 ／ 18台 (100. 0 %)	18 台 ／ 18台 (100. 0 %)	18 台 ／ 18台 (100. 0 %)
5	会社周辺の清掃 (※ 100% 以上を 達成目標とする)		実施 回数 (達 成 率)	38 回 ／ 年	40 回 ／ 年 (105. 3 %)	41 回 ／ 年 (107. 9 %)	42 回 ／ 年 (110. 5 %)	43 回 ／ 年 (113. 2 %)
6	無事故 無災害 達成 (※ 各所 100%を 達成目標とする)		事故災害 件数 (達 成 率)	0 件 ／ 年	0 件 ／ 年 (100. 0 %)	0 件 ／ 年 (100. 0 %)	0 件 ／ 年 (100. 0 %)	0 件 ／ 年 (100. 0 %)
7	若手社員の採用 と 育成		若手採用 人数	1 人 ／ 年	1 人 ／ 年 (100. 0 %)	1 人 ／ 年 (100. 0 %)	1 人 ／ 年 (100. 0 %)	1 人 ／ 年 (100. 0 %)
			教育研修 回数	6 回 ／ 年	6 回 ／ 年 (100. 0 %)	6 回 ／ 年 (100. 0 %)	6 回 ／ 年 (100. 0 %)	6 回 ／ 年 (100. 0 %)

備 考 1 : 電気 (1-1)・水 (3)・周辺の清掃 (5) は 本社のみ、LPG (1-4) は 本社と黒崎の合計で 集計する。又、購入電力の二酸化炭素排出係数は、2019年度 日本テクノ ㈱の 0. 501 kg-CO₂/kWh₂ 使用し、2023年度以降の目標 及び 実績を 計算している。

2 : 循環資源のリサイクル率は、年度毎の 循環資源／総排出量で 計算する。

3 : 化学物質の使用は、行っていない。

2024年 4月 1日

2024年度 環境経営計画

2024年度 環境経営計画の項目

(1) 二酸化炭素 総排出量削減

[illegible]

(2) 廃棄物 排出量の削減 と 建設資材のリサイクル率の向上

[illegible]

(3) 総排水量の削減

[illegible]

(4) グリーン購入の推進

[illegible]

(5) 会社周辺の清掃等

[illegible]

(6) 無事故無災害の達成

[illegible]

(7) 若手社員の採用と育成

[illegible]

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び 結果の評価 並びに 違反・訴訟などの有無

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。又、関係機関からの指摘や利害関係者からの訴訟もありませんでした。

環境関連法規等の取りまとめ 及び 遵守状況のチェック結果

法 律 名 等	法 令 条 項	事業・作業	適用 条件	要求 事項	要 求 内 容	定期的確認	主観 部門
						遵守条件・判定	確 認 日
* 廃棄物処理法	12条 1項 同令 6条、6条の5	収集運搬業務	自ら収集運搬を行う場合		○ 運搬車両への表示 ○ 運搬内容の記載と常時携帯	○ ○	総務課 2024年 4月 5日
	12条 2項～9項 同令 6条の2の4・6 同規則 8条の2～4	産業廃棄物の 委託処理	廃プラ・木屑・紙屑・瓦礫 ゴム屑・コン殻・金属屑	委託先の確認	○ 収集運搬 及び 処分業者の許可証の確認 ○ 中間処理施設等の現地確認	○ ○	総務課 2024年 4月 5日
	8条の4の2・3 8条の19～30 同令 27条 同規則 8条の26・27			委託契約の締結・保存	○ 委託契約の内容確認 ○ 契約書類の保存（5年間）	○ ○	総務課 2024年 4月 5日
	30、30の2 同規則 8条の14～16 16の2、16の3 10条の8、21 法12条の3項の6 規則 8条の27			マニフェスト伝票の交付 回収・照合 及び 保管	○ 適合マニフェストの使用 ○ マニフェストの回収日の管理（A票で照合チェック） ○ マニフェスト・委託契約書の5年間 保存 ○ 未回収戻票の報告 ○ 管理票交付等の状況報告	○ ○ ○ ○ ○	総務課 2024年 4月 5日
	12条 2項 同規則 8条	産業廃棄物の処理	現場保管・仮置き場	適正な保管・管理	○ 野外焼却の禁止 ○ 積上・雨・風・悪臭に対する養生、保管場所掲示板の設置	○ ○	総務課 2024年 4月 5日
* フロン排出抑制法 （改正フロン法）	法 第 5条 法 第16条 経済産業省/環境省 告示：第13号		平成27年4月1日 施行 業務用エアコン、冷凍冷蔵 機器の管理者（使用者）	フロンガス管理の適正化 簡易点検を 3ヶ月に1回 以上実施	○ 異常音の確認 ○ 外観損傷・摩耗・腐食 及び 錆、その他の劣化 ○ 油漏れの確認 ○ 熱交換器への霜付着の確認	○ ○ ○ ○	総務課 2024年 4月 5日

9. 代表者による全体評価 と 見直しの結果

2023年度は、主要得意先の工事が大きく減少した為、構内以外の一般工事の受注増強を図ってきました。売上の減少に伴ってCO2の排出量などが減少し、環境経営目標を達成するものと見込んでいましたが、目標に若干届かず、今年も目標未達となっています。

年間経営計画に基づいて、化石燃料や電力などあらゆる軽減活動を行っています。一般工事の増加により、製品の車両運搬や出張工事・発電機などの使用が増えて、CO2の排出量を増加させる結果となっています。

建設業は、工事の種別や売上の変動が激しく、数値目標の設定や達成が難しい職種ですが、社員みんなで、エコアクション21に取り組むことで、一人ひとりが、化石燃料の軽減や作業効率など考え、目標達成するには、日々どう行動すべきか向き合うようになっています。又、コスト面でも無駄な在庫は持たないなどあらゆる活動が定着したことで、数値以上の成果が出ています。

KY活動の実施や現場パトの強化、安全衛生教育の充実などを図り、今年度も無事故無災害が継続されたことは、会社にとって大きな成果であったと言えます。

現在、建設業界でも人手不足が続いていますが、人材確保に向け、あらゆる努力を続けています。「働き方改革」が始まり、職場の環境づくりや衛生健康面・社員の休日取得などにも目を向け、今後も社員みんなが、明るく安心して働ける職場づくりを目指して行きましょう。

以 上